

十月二日に、世代間交流事業である、三施設交流会「秋のお楽しみ会」が開催されました。この事業は、令和四年に山辺児童センター、山辺放課後児童クラブ（のびるっこ）、里山辺地区福祉ひろばの共催事業として立ち上がり、今年で四回目の開催を迎えました。

近年は様々な環境の変化から核家族の家庭も増え、幅広い世代間の交流の機会も減少しつつあります。

この事業は、子ども達とシニア世代が楽しく交流することを目的として立ち上げた事業ではあります。しかし、互いの世代の文化や考え方について理解を深める、よい機会にもなっています。

第一回事業では、健康運動指導士の「山本昭子先生」と「アルプスのマンドリーノ」の皆さんをお招きし、手軽にできる運動と、マンドリンの演奏を樂

### 三施設交流事業を終えて

里山辺地区福祉ひろば「ディネーター

小笠原 陽子

十日二日に、世代間交流事業である、三施設交流会「秋のお楽しみ会」が開催されました。

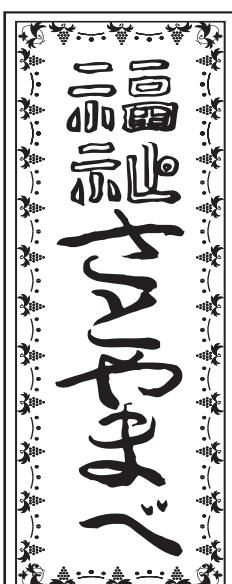
この事業は、令和四年に山辺児童センター、山辺放課後児童

クラブ（のびるっこ）、里山辺地区福祉ひろばの共催事業として立ち上がり、今年で四回目の開催を迎えました。

三施設が集まって楽しく交流しました

第三回目は「音楽ボーカル」によるチエロとヴァイオリンの演奏と、音楽に合わせての歌唱を楽しみました。奏者のお二人がどの世代も歌える選曲をしてください、会場の外にも聞こえる太合唱となりました。

トレーナーの「赤津章恵先生」による「うんどうあそび」を、



発行 松本市社会福祉協議会里山辺支会  
編集 福祉さとやまべ編集委員会

印刷 藤原印刷株式会社

里山辺公民館大会議室にて行いました。民生児童委員協議会会長の上條さん、宗田市議会議員にもご参加いただき、総勢五十名でござやかにゲーム等を楽しみました。子ども達からも「またやりたい。」の声を聞くことができました。今後も参加者が主体となる企画をしていきたいと思います。

福祉ひろばでは、交流事業の他、健康推進事業、子育て支援事業、認知症予防を兼ねたクラブ講座など様々な事業を行っています。福祉ひろばをご存知ない方も、ぜひ一度足を運んでいただければと思います。

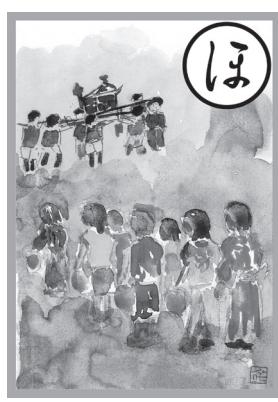
「ほんぽん青山様」は松本地域の子どもたちのお盆の風物詩です。前松本市立博物館長の木下守氏によると、「ほんぽんは江戸中期頃より始まった女兒の行事」のようですが、一方の青山様は「明治初期に深志神社の例祭後に子どもたちが町内を練り歩いたのが起源」のようです。

この行事は里山辺の多くの町会で見られますが、入山辺では見られません。「松本の町に隣接した地域で町のいろいろな行事の影響を直接受けやすい地域」だったのでしょうか。あるいは通称『山辺街道』が町の生活にとって重要な意味があつたことを暗に物語っているのかもしれません。

『里山辺かるた』  
よもやま話  
里山辺地区の多くの町会に見られる「ほんぽん青山様」、  
松本地域文化財連絡協議会  
会長 小岩井 俊忠  
(45)



三施設が集まって楽しく交流しました



ほんぽん青山様に興じる子どもたち

ほんぽん青山様  
山辺っ子に 受け継がれ

ほんぽん青山様  
山辺っ子に 受け継がれ



フラダンスを楽しみました

残暑のまだ厳しい中、九月十五日薄町公民館において六年ぶりとなる敬老祝賀会が開催されました。コロナ禍で人々の集まりが制限される中で、飲食等が禁止されてから久々の開催となり、町会長、実行委員一同、大変嬉しく思います。

今年は一部でフラダンスショウ、二部で祝賀会を開催しまし

## 六年ぶりの 敬老の日 祝賀会開催

薄町公民館長 篠田秀美

二部の祝賀会が始まる前に、米寿表彰があり、五名の方が表彰されました。また、出席者の中の最高齢者が九八歳でお元気に出発されたことも紹介されました。



祝賀会が開催されていた頃は三〇名前後の参加者がいました。今回は十四名参加となりました。参加者が減つて大変残念ですが、新しい方もいましたので、来年以降増加すれば嬉しく思います。

最後に、皆様方が末永く御健康で過ごされますよう祈念致します。

今年は六年ぶりの開催のため、招待される側の皆様も六歳お歳を取られた訳ですので、今までは出席されていた方が、体の具合が悪い等で今回欠席される方もいたと思われます。

二部の祝賀会では、ビデオで『薄町のお船、令和の大修理』を流しながら、幕の内弁当、お酒等を頂きながら楽しく観賞、談笑して頂きました。

欠員のため、急遽民生児童委員になり引継ぎもなく、手さぐりで始めた活動も十年以上になってしまった。始めの頃は、訪問相手も不安感があつたと思ひます。

## 民生児童委員の活動を 振り返って

新井町会 民生児童委員

遠の登下校時 声をかけるなどせ  
やんと応えてくれて、うれしか  
つたです。研修会では多くを学  
ばせてもらい、特に医師の高木  
先生の講演での認知症の人の対  
応など目からうろこでとても勉  
強になりました。

民生児童委員を否応なく引き  
受けた私でしたが、自分自身が  
一番成長できたと思っています。  
これからも赤ちゃんから高齢者  
まで安心して暮らせる町内にと  
頼うばかりです。

今年八月に記念すべき「福祉さとやまべ」の一〇〇号が発行されました。今回は一〇一号となりますが、これからも、里山辺地区の福祉活動について理解を深めていただけるような発信となるよう努めてまいります。



「こんにちは赤ちゃん。」



夏まつりにも参加しています

次の民生児童委員の方の負担にならないように、みんなで支え合い、活動を通して自分自身も楽しむ事を忘れないでほしいです。